



北支那協會第貳百九十六回例會席上
 蒙疆銀行總裁呈
 文書股長兼調査股長 前野善衛門氏述(要旨)

蒙疆政權の現状と其の經濟建設全貌

(昭和十三年十二月)

日本外交協會

88

S 1.3.3.0 -1 1748 0337

REEL No. A-0363

0044

アジア歴史資料センター

(お断り)

蒙疆政權に関する概念は其の文献少く普遍化させる折柄、本協會に於ては蒙疆銀行創立當初より直接関係這間の事情に通曉せる前野氏より詳細に之れが報告を拜聴するの機を得たり、本稿は同氏口演要旨の筆録なるが、其の内容に於て創建當初の事情等機密の點からざるものあり、而も口演者の査閲を経ざるものなるを以て、會員外の閲讀は特に御留意相成をし、

昭和十三年十一月

日本外交協會調査局

S 1.3.3.0-1 1749 0338

蒙疆政權の現状と其の經濟建設全貌

目次

まへがき

第一 蒙疆政權の現状

- 一 蒙疆政權の成立經過
- 二 蒙疆聯合委員會と自治政府
- 三 蒙疆の政治的特殊性
- 四 蒙疆政權を繞る諸問題
 - (イ) 北支との関係はどようする
 - (ロ) 蒙漢兩民族の統合問題
 - (ハ) 内外蒙古の関係
 - (ニ) 複雑なる内部関係
- 五 蒙疆の治安

S 1.3.3.0-1 1750

第三 資源と經濟

- 一 蒙疆の三大資源 一九
 - ニ 鐵と石炭 一九
 - 三 羊毛 二〇
 - 四 西北の經濟的價值 二〇
 - 五 其の他の資源 二〇
 - 六 蒙疆産業開發に對する蒙疆政權の態度 二〇
- 第三 金融工作の概要 二〇
- 一 察南地域の金融工作 二〇
 - ニ 晋北地域の金融工作 二〇
 - 三 綏遠地方の金融工作 二〇
- 第四 蒙疆銀行と金融統制の強化 二〇
- 一 蒙疆銀行の成立 二〇
 - ニ 蒙疆銀行の業務概要 二〇

0339

1751

S 1.3.3.0-1

第五 蒙疆地域の通貨と爲替事情

- 三 金融統制の完成 二〇
- 第五 通貨制度 二〇
- 一 通貨政策の大要 二〇
 - ニ 對外爲替問題 二〇
 - 三 爲替管理と物價統制 二〇
 - 四 租界と貿易の實情 二〇
- 第六 蒙疆經濟の特殊性 二〇
- 一 物々交換經濟の實情 二〇
 - ニ 西北經濟依存性 二〇
- 第七 支那人と蒙古人 二〇
- 第八 支那に於ける外國人の文化政策 二〇

1752

S 1.3.3.0-1

(目次終り)

蒙疆政權の現状と其の經濟建設全貌

蒙疆銀行 總裁 室
文書部長 兼 調査部長 前野 善衛門 氏 述 (要旨)

まへおき

只今御細目を頂いた蒙疆銀行の文書部長兼調査部長前野でございます。實は只今御細目下さった吉野先生は私の恩人でありまして、私の上京したのを機会に、何か向ふのことを話せと云ふ御命令を受けたのであります。御覽の通りの若年者でありますし、何等の経験もないので、斯う云ふ席へ罷り出しまして、皆様の前でお話すると云ふことは、為荷がましいと存じますので、これは日滿支經濟懇談會に出席してゐる寺崎副總裁が罷り出しまして、御説

S 1.3.3.0-1 1753

0340

明申上ぐる事が最も適當と考へましたが、副總裁は只今帝國ホテルで會議中で、とても繰合せがつかないので御座いますから茲に罷り出た次第であります。

蒙疆へ参りましたからまだ半年どころでありまして、蒙疆の事情もまだ深く認識して居らぬ憾みもありますし、また上京以來非常に多忙でお話の草案といふやうなものも、とても考へて居る暇もありませんので、大変取止めもない話になることを慮れるのであります。どうか若年者の私に免じまして、お許しを願ひます。これは結構だと存じます。

御承知のやちに蒙疆政權は成立後一昨日をもつて滿一ヶ年を経過したのであります。張家口、大同、厚和等の都市に於きましては、一週年の成立祝賀を大々的にやつて居ることと思ひます。私共の蒙疆銀行が創立されましたのも、昨年の昨日でありまして、實は昨日蒙疆銀行創立一週年の記念式を終つた譯であります。丁

S 1.3.3.0-1 1754

度一週年の記念に當りまして此處で向ふのお話を致すと云ふことは大変私としまして嬉しく存じます。

併し茲に御出席の大部分のお方は向ふのことに認識をおもちになつて居ると、半澤先生のお話でありますから、一般的問題を申上げても、興味がなれないと思ひますので、出来るだけ一般的問題は省略させて頂きました。蒙疆政權としての當面の問題及私共が常に仕事の上で障感を感じ、或は不満を感じて居ることを、順々に話して見たいと存じます。と申しましたも約一ヶ月になりませんが、私共の銀行から支那人重役を中心に、蒙疆訪日金融視察團が御當地に出しまして、視察を終つて歸つたばかりでありますし、引續き徳王一行が視察に上つた、さう云ふ關係で蒙疆の事情を非常によく認識して居らるゝ方が多いので、私共當地に罷り出まして、向ふの事情を申述べると云ふことは、非常に話づらひであります。一般的のことも若干お話させて頂きたいと存じます。

S 1.3.3.0-1 1755 0341

第一 蒙疆政權の現状

一、蒙疆政權の成立經過

御承知のやうに蒙疆は昨年の事變の際に、關東軍の察哈爾作戰に基き、承德から多倫、張家口、大同、厚和、包頭、斯う云ふ線を通じて肅清工作が行はれたのであります。一方北支の方からは今陸軍大臣をして居らる板垣閣下が、南口で非常に苦戦をされ、あそこを陥落して、南北双方からの作戰部隊によつてこの蒙疆工作が行はれたのであります。非常に重要な意義があると思ふのであります。

成立の當初は何んと申しましたも、舊軍閥に荒された土地でありまして、國民政府と行動を共にするものが多く、第一流の人物は大部分は逃げて行つて了つて——この逃げた奴を逆産人物と言ひ、それ等の人物の財産を逆産として處理して居る——現に蒙疆に残つて居るものは實は第二、三流の人物のみで、従ひまして私共日本人が乗り

S 1.3.3.0-1 1756

込んで行つて、いろく政治を行ふに致しましても、殊にあまり偉い人間が居りませぬものですから、非常にやりよく、政權の眞中に入つてガツチリとやつて行けるのであります。

先般東宗した徳王と云ふ人は非常に偉く、蒙古人の崇拜を一身に集めて居りますが、徳王は御承知のやうに、蒙古聯盟の主席であつて、蒙疆政權の主權者にはなつて居りませぬ。即ち徳王は僅かに蒙古聯盟の主席であつて、蒙疆政權の王様ではないのであります。

ニ 蒙疆聯合委員會と自治政府

蒙疆政權と云ふのは、蒙古聯盟自治政府、察南自治政府、晋北自治政府の三つが一箇になつて作つたのであります。李守信も蒙古聯盟自治政府の副主席と云ふことになつて居ります。この三つの自治政府の上に蒙疆聯合委員會と云ふやうな中央政府が出来て居るの

S 1.3.3.0 -1 1757 0342

であります。この中央政府の主席は、總務委員長と云ふ名前をつけて居りますが、現在は缺員で、最高顧問をやつて居る金井章二氏が總務委員長事務取扱をして居られます。總務委員長は向ふの内閣總理大臣であります。さう云ふ實情でありますから、各方面で徳王が恰も蒙疆聯合委員會の主權者であるかのやうに思つて居る向もあります。さすが、そんな御考を御持ちの方は御訂正を願ひます。

蒙疆聯合委員會は中央政府の形式を執つて居りますが、現在のところ中央政府としての實權はもつてゐないのであります。それがどうしても若い人の不満とするところでありまして、將來中央政府をらしむべく、着々努力して居るのであります。しかし各自自治政府とも各々成立の経緯がございまして、簡単に参りませぬ。たゞ所謂親日、防共、民生の向上、民族協和の四つを旗印としてゐる點では各自自治政府とも目標が一致して居る譯でありますし、それに同じ建設工作をするなら、何とか合同したらと云ふことに意見が一致

S 1.3.3.0 -1 1758

して、蒙疆聯合委員會が成立したのであります。この蒙疆聯合委員會は各自治政府から一定の権限を委託されて居るのであります。その委託された権限内で仕事を行ふと云ふのであって、大分他の中央政府と趣きを異に致して居るのであります。初めは外交、産業、金融、交通等の重要事項だけの権限を委託されて仕事をして居ったが、委託されたと申しましたも、契約に依って委託されて居るのであって、別に組織法がある譯でもないの、法律的には實は疑問になつて居るのであります。尤も會令と稱する法律の様なものを出しては居るが、これも果して純然たる法律としての効力ありや否やは多少議論もあり漠然として居りますけれどもそれらに御構ひなくどしどし仕事をして居ります。所が本年の下期に入りまして、蒙疆の金融工作も成功裡に一段落し、各特殊會社も一應整備し、經濟建設の基礎的工作が出来上り、愈々これから本格的産業開發に乗り出さねばならぬ氣運に際會しまして、蒙疆政權の基礎を更に鞏固にし、

S 1.3.3.0 -1

1759 0343

第二發展期に備へ様と云ふことになつたのであります。偶々支那の方では北支、中支の兩政府が中國政府聯合委員會を作ると云ふ噂も御座いましたので、之に備へる意味もあつて八月一日に蒙疆聯合委員會を改組する——改組でなく寧ろ擴充強化することになつて、その前まではたゞ外交、産業、金融、交通と云ふ重要事項だけを委託すると云ふことであつたのを内政、外交の全面に亘る様に契約を要更したのであります。この結果蒙疆聯合委員會に總務部、治安部、産業部、交通部、財務部、民生部の六つの部が出来て、政治全般に亘つて行政を行ふと云ふ方式を採つたのであります。然しなからそれも全部がたゞ契約に依つて出来て居るのであります。何等中央政府の形を執つてゐないために往々にして文句が出ます。「聯合委員會は契約によつて各自治政府より一定の権限を委託されて居るが、それは内部の契約であつて、人民を拘束する權利はないではないか」と云ふ疑問もあり、文句が出るのであります。

S 1.3.3.0 -1

1760

併し現在の蒙疆地域は何と申しても戦争地域であり、軍事地帯である。而かも仕事をしなくてはならぬ。にも拘らずさう云ふ状態であるが、兎も角、基礎を作ることが先決問題である。基礎を作る為には多少の無理があつても己むを得ないではないか、ヒ云ふ譯で大分テキパキと仕事をやつて居ります。従つて仕事の上に或は間違も無いではないかと思はれますが、間違があれば後で修正するほか仕方がないと存するのであります。

三、蒙疆の政治的特殊性

一般的问题はこれ位にしまして、蒙疆の政治的特殊性といふやうなことに就いて申し上げます。大体蒙疆地域の重要な政治的特殊性は「防共」と云ふ一點に歸して居る様であります。その他蒙古人の問題とか、回教徒の問題とか、いろいろあります。が、論じつめれば防

S 1.3.3.0-1

1761

0344

共と云ふ一點に歸するのであります。共産主義を排撃する、それだけで大体政治的特殊性がある譯であります。満洲、蒙疆から中央亞細亞をぶち抜いて防共の障壁を作ると云ふことが必要ではないか中央亞細亞近共産防壁を作つて蘇聯の所謂赤色ルートを又々切つて了ふ、どこまで行かない間は——防共陣はそれだけでよい譯ではないが——蒙疆、新疆地方から中央亞細亞まで延ばして、始めて防共の目的は達せられる。斯くの如く大陸の外廓を固めれば大陸の内郭は自ら治まりはしないだらうか、それには蒙疆は満洲と共に獨立國家として永久に存立しなげればならぬと考へるのであります。

四、蒙疆政權を統る諸問題

それから現に蒙疆政權にはいろいろと問題が起つて居ります。

S 1.3.3.0-1

1762

(イ) 北支との関係はどうする

第一は北支との関係をどうするか、中國政府聯合委員會の第二回
目の委員會が南京で今月中旬に開かれまして、蒙疆を勧誘すると云
ふ話がございます。蒙疆としましては、日本の大陸政策として蒙疆
を参加せしむると云ふのなり鬼に角、われわれのやうな蒙疆の人と
なつて、向ふで働いて居る者の考へ——私共としての考へがござい
ます。私共の考へはどうかと申しますと、大局的に見て大陸と一箇
になつて、中國政府聯合委員會に参加すると云ふことには反對して
居る。其の理由は、蒙疆は政治的な特殊性質を持つて居る。北支、中
支と一所になり得ない特殊使命を有して居る。此の使命を達成する
にはどうしても獨立國家として存立しなければならぬと云ふやう
な意見に一致して居るのであります。これが二三日前の東京日々新
聞に出た現地の空氣であります。と申しますのは「蒙疆は曲りなり

S 1.3.3.0 -1

1763

0345

にも第二の滿洲國の如く、國家の體裁を爲して居る。既に耕地整理
が出来て居る。然るに北支の方は未だ耕地整理が出来てない。ゼッ
くばらんに申すならば泥沼ではないか、お前の方は泥沼で自動車も
通らない、船も通らない。蒙疆の方は耕地整理が出来て居る。大き
な道路も出来て、自動車も自由に通り、一切のことがうまく行つて
居る。泥沼と耕地整理の出来て居るものとを一緒にされては困るで
はないか、若しも蒙疆を参加させたら、自分の方の耕地整理
をして来い』と云ふわけで可なり強い覺悟で強い主張をもって居るの
であります。従つてまだ當分は参加の勧誘には乗らないではないか
と思つて居ります。今一箇にならねば、非常に困ることがある。
例へば私共の蒙疆銀行にしましても、大陸の金融は中國聯合準備銀
行が一元的にするのが理想ではないかと云ふ御意見もあるやうに聞
いてゐますが、さうかと言つて蒙疆銀行が直ちに中國聯合準備銀行
に参加することはこれまた一寸勇氣はないのであります。蒙疆銀

S 1.3.3.0 -1

1764

行は蒙疆政權と同じやうに、内容がガツナリして凡ての點に於てうまく行つて居る。然るに中國聯銀の方はなか／＼と行きませぬさう云ふことは北支共通の缺點であります。北支政權自体に日本人が入つてゐない、その他中國聯銀にしても、何等日本人は實務に携つてゐない。私共の同僚が十人ばかり中國聯銀に入つて居りますが全部阪谷顧問附になつて居りますやうな次第で、企畫とか調査とかそんなことはかりやうして居つて、營業の實權と云ふものは何等もつてゐない。従ひまして折角よい頭でいろ／＼立案しましても、實行する側に日本人が入つて居りませぬから、しないことと同じことでありまして、政權自体、銀行自体に何等日本人が力をもつてゐないために、何等の實行も出来ない、所謂泥沼と申して居ります（英聲）故に蒙疆銀行を合併されては非常に迷惑するのであります。蒙疆銀行は飽く迄蒙疆の中央銀行としてガツナリやうに行きたいと考へて居るのであります。

S 1.3.3.0-1 1765

0346

(ロ) 蒙漢兩民族の統合問題

第二には三つの自治政府の統合問題であります。これも結局蒙疆國を作ることが理想と思はれます。何しろ蒙疆地域で蒙古人は僅かに三十萬人内外、蒙疆の全部の人口五百五十萬人のうち、蒙古人は僅かに三十萬人である。その蒙古人を表面に立てゝ居ると云ふのは一つの政治的ゼスチュアになつて居ります。然るに蒙古人が蒙疆五百五十萬の人口のうち、僅かに三十萬で國家を作つた場合、將來どうなるか、非常に重大なことになる。従つてなか／＼實際問題として、この理想は一寸實現出来ないではないかと思つて居ります。それ故に蒙疆はやはり蒙漢兩民族の融和を基礎とする獨立國家にするのがよいではないでせうか。

S 1.3.3.0-1

1766

(ハ) 内外蒙古の關係

第三は蒙疆の内部関係であります。これは將來とも日本の大陸政策上、大きな問題だらうと思はれます。御承知の通り蒙疆と外蒙との関係であります。外蒙は外蒙人民共和國として完全に蘇聯の勢力範囲になつて居る。同じ蒙古人でありながら、内蒙のものは蒙疆政權に據つて防共を旗印にして居る。廣漠たるゴビの沙漠に跨つて、何等具體的の國境と云ふものもない住民が、同じ蒙古人で民族習慣、生活一切を同じうしなから、たゞ政治的環境を異にするがために二つの政權に分れて争つて居ると云ふことは非常に問題であります。例へば外蒙に親が居り、内蒙に子供が居る。さう云ふ場合、その子供が親に逢ひに行くと蘇聯の國境監視兵に捕まつてひどい目に遭ふと云つた例は屢々あります。西へ伸れば伸びる程斯様な関係が濃化して来る。延いて曰蘇聯の危険と云ふことが、さう云ふところから起りはしないかと考へられるのであります。

S 1.3.3.0-1 1767 0347

(二) 複雑なる内部関係

それから第二の内部関係と致しまして、五百二十萬の漢民族と三十萬の蒙古人との間に摩擦が將來起りはせぬかと云ふことが問題であります。丁度現在はその融和した點に達着して居るのであります。御承知のやうに徳王は徳化と云ふところの王様であつて、綏遠、厚和と云ふやうなところは傳作義が勢力をもつて居つたし、また張家口附近には廿九路軍の例の宋哲元が非常に勢力をもつて居つた。事變前は宋哲元の戦分の劉汝明が居つて民族的に争つて来たのであります。元來清朝何百年と云ふ間、蒙古人は漢民族のために非常なる壓迫を受け、政治的にも經濟的にも、再び起つ能はざる状態にまでなつて居つたのであります。丁度張家口から二百五十キロも入りなれば蒙古にはならないやうに、蒙古人はだんぐ自分の土地を失ひまして、奥へ奥へ逃げたやうな状態で、蒙古人の偉い人は何んどかし

S 1.3.3.0-1

1768

て失地を恢復したいと常に考へて居った。斯様な矢先に滿洲事変が起り熱河工作が行はれ、滿洲國の強化の爲に察北地方の工作が行はれましたので、蒙古人は日本の勢力に頼って、自分の勢力を取戻したいとさう云つた氣分で居りましたので、徳王初め日本に頼り、蒙古人全体が日本に頼ると云ふ氣持になつた。一方の漢民族は抗日意識が非常に強かつたのでありますが、現在は凡てが滅茶苦茶にぶち壊されて味噌も糞も同一になつた、そこへ蒙古人としては漢民族が邪魔になる。斯様な次第で蒙古人と漢民族を一掃にすると云ふことは、内部的に問題を内包して居るのであります。以上が蒙疆政權の當面の問題としてはその大体であります。

五、蒙疆の治安

次は蒙疆の治安はどうなつて居るかと思ふ問題であります。これ

S 1.3.3.0 -1 1769 0348

は自分の關係外のことではありますが——蒙疆の治安は非常によくなつて居ります。北支とは一寸比べものにならない位であります。先づ滿洲國の北滿位の治安状態ではないかと思ひます。日本軍が駐在して匪賊討伐をして居りますが、もう討伐する匪賊も殆んど居りませぬ。偏々太原附近の五台山を中心に共產軍が相當活躍して居りましたが、これも先程の討伐で全滅したやうでありますし、また察南自治政府と晋北自治政府との境の長城線にナヨイ、^{一八}現はれませんが、これは逃場を失つた舊廿九路軍及共產軍の敗殘兵であります。この舊廿九路軍の兵隊は云ふものは、熱河出身のものが非常に多い。その敗殘兵が徒歩で僅か二十人か三十人死だんぐ熱河の方に近寄つてくる、それ等が喰物に困つて通行人を迫害したりします。さう云ふものも居りますから、絶対に治安が確立されたとは申せませぬが、さう云ふ状態で京包線は一日と雖も汽車の止つたやうなことは、こゝ五六ヶ月ありませぬ。さう云ふ風を治安はうまく行つて居

S 1.3.3.0 -1 1770

ります。

第二 資源と經濟

一 蒙疆の三大資源

次に蒙疆の經濟事情を申し上げたいと存じます。第一は資源であります。これは申すまでもなく皆様は私共よりも、よく御承知のことと思はれますので簡単に申し上げます。蒙疆の三大資源は鐵、石炭、羊毛であります。

ニ 鐵と石炭

鐵は約一億五千萬噸位あると云ふ推定であります。宣化の龍烟

S 1.3.3.0 -1 1771 0349

鐵礦の一億噸、これは赤鐵礦でありまして、悪いので四〇%よいのだと九〇%、平均六〇%位の含有量をもつて居りまして、現在興中公司が總管して居ります。然し採掘法は非常に幼稚で鑿を割つて、それを捲ぎ出し、トロッコで積出して居ると云ふ譯で、三千人の坑夫を使って居りますけれども、一人當り一噸も出ないと云ふ位であります。何しろ昔からあすこの地域は鐵坑夫にしても、石炭坑夫にしても、専門的のものは殆んどゐない、全部農民を狩り集めてやつて居る。百姓の暇な時には澤山集りますが、農繁期になるとバラバラ散つて了つて、また暇になるとノコノコ出て来て働くと云ふ場合で給料は六十錢位やつて居ります。百姓の暇な時は喜んでやつて居りますが阿片の採取期などになると皆行つて了ふ。阿片の採取は今年も嫌がつて出て来ない、三千人使つて居る坑夫が九月には約一千人位に減つて居ります。これには鑛山當局も弱つて居るやうであります。

S 1.3.3.0 -1 1772

それから大同の石炭であります。これも同じでありまして、今
五千人位の坑夫が居りますが、大部分農民であつて、今申上げら
れと同じ状態で八目頃には二千人位になつて急に採炭が減つて弱つて
居る。そこで鑛山當局は専門的な坑夫を入れたりして資本と技術と
の方面に、いろいろの施設を考へて居りますが、なか／＼出ないの
で弱つて居るさうであります。大同の石炭は大抵の方が御存知のこ
と、思ひますから詳しくは申上げませんが、私達素人が見ても分り
ます如く、質が非常によいと云ふことが特徴であります。どんな
風に質がよいかと申しますと——こちらへ参りますのに東海道線で
も感ずるのであります。——日本の石炭は汽車の窓を開けて置いて
も坐席に煤塵が飛んで来ますが、向ふの石炭は窓を開け放したと置いて
も、白い服を着て居つてもその服が少しも汚れないと云ふ程であり
まして、これを以てしても如何に質がよいかと云ふことが感ぜられ
るのであります。それから石炭坑にガス一つなく水もない、それで

S 1.3.3.0-1 1773 0350

洗炭の必要が少しもない、これを見ても素人ながら良いと云ふこと
が感ぜられます。私共滿洲の北票炭礦に参りましたことかあります
が、あの炭礦でも水が出る、ガスが出ると云ふ状態であつたのであ
ります。

たゞ現在のところ輸送の點に於て困難を感じて居るのであります
所謂京包線が二百萬噸位しか輸送能力がないのであります。將來こ
れを持ち出す場合に、大きな専用鐵道を作ると云ふ計畫がありまし
て其の話が一昨日の日滿支經濟懇談會に提出されたやうであります。
京包線は今年のうちに百萬噸殖やすことになり、來年中には百七八
十萬噸輸送を殖やす計畫になつて居りますから四百七十八萬噸にな
るだらうと思ひます。何分、八達嶺の峻しい山のせめに複線にな
らないので、引込線を長くしまして輸送を増加させるのであります
が、目下盛にやつて居ります。それにしても四百七十八萬噸では問
題にならない。蒙疆としましては京包線による搬出以外にどうして

S 1.3.3.0-1 1774

も専用線を作らねばならぬと云ふわけで計畫を樹て、居る。これは今の所デスクプランに過ぎませぬが、日本の大きな資本と北支開發會社と蒙疆政權との協力を依つて、大同から年三十萬噸を輸出することを目標にして計畫して居るのであります。一ヶ年三十萬噸を輸出しても二百三十年の壽命を持つて居ります。商工省かどっかの調査に依ると、日本の現在の石炭消費量から行くと昭和廿一年には年四千萬噸の石炭不足を生ずることになって居るさうでありますから、それには大同の石炭を充分に使つて行けば、これはその心配はないのであつて、この計畫は是非實行しなければならぬと考へて居ります。

三 羊 毛

鐵、石炭以外のもう一つの資源は、羊毛であります。鐵、石炭が

あまりに有名なために、羊毛はあまり知られて居りませぬが、御承知のやうに蒙古人の生活は羊によって生活して居る。羊は蒙古人唯一の財産であり且つ生活資源であります。羊の乳を飲み、羊の肉を食ひ、羊の毛で織物を作つて之を敷き、羊の毛皮を着、羊の皮で包（家）を作つて生活すると云ふのが本來の蒙古人の姿であります。従ひまして蒙古人が羊を飼ふと云ふことは生活目的として飼ふのでありまして自分が着て、自分が食ふために羊を飼ふ。それがために羊毛の改良と云ふことには、從來何一つ加へられて居りませぬ。蒙疆の羊毛が非常に弱く纖維が太く、砂が混つて居り、規格がないと云ふことも、全く自己の消費が主で、交換價値として生産されてゐなかつたためでありませぬ。蒙疆の羊毛は年産三千五百萬斤位ありますが、これが殆んど日本へは來て居なかつたやうであります。蒙古聯盟自治政府では畜産部を設けて、躍氣になつて畜産政策をやつて羊毛の改良に非常に苦心して居りますが、さう云ふ習慣的に培つて

S 1.3.3.0 -1

1776

S 1.3.3.0 -1

1775

0351

来たものを、新しいものにするに云ふことは非常にむづかしいのでありまして、生産体を改良するにとも、日本羊毛工業を改良して頂きまして、蒙疆羊毛を買ふやうに注文して居るのであります。

四 西北の経済的價值

羊毛に付て序でありますから申上げますが、西北方面——包頭から先の地域は非常に質の良いものが出て居ります。これはたゞ事変前（民國廿五年）には三千三百四十萬斤位出て居ったのであります。包頭は西北地方の基点になつて居りますから、あの地方のものは皆包頭に集つて参ります。殊に寧夏産の西寧羊毛は第一の良質のもので、蒙洲羊毛に匹敵する位の羊毛であります。民國廿五年には一千七百萬斤と云ふ巨額の羊毛が産出され、その九割はカーペット原料としてアメリカや歐洲へ出て居ります。これは天津の外國商人

S 1.3.3.0 -1 1777

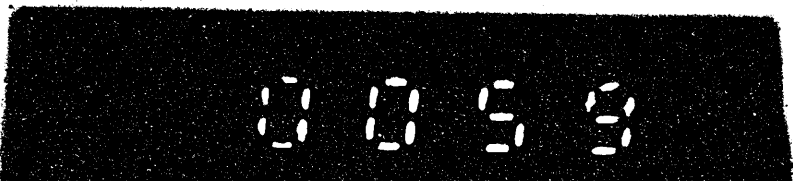
0352

の手で直接外國へ出て居ります。その他甘肅、陝西、四川等より相當産出されます。その中日本で使はれるものは僅かに烏拉山の羊羴榆林の紫羊羴位で五六十萬斤に過ぎないのであります。只今は残念ながら日本の現地工作が包頭まで終つて居りますので之等の全部に手を延ばす迄には行つて居りませぬ。有名な西北の貿易が完全に出来ないので、殆んど出て参りませぬ。西北のことは後程申上げますが、大きな問題を殘して居る譯であります。

五 其の他の資源

その他農産物關係のものからは、獸皮、豆麻、塩、阿片等が澤山出て居ります。特に阿片は蒙疆地域で一千萬両（一兩は十匁）西北よりの移入一千萬両を豫想され、中一千三百萬両を京津に輸出する豫定でしたが、西北方面が開かれて居る爲めに出て参らず従つて阿

S 1.3.3.0 -1 1778



片の値段は一兩六圓の高値を示し、昨年の三倍になつて居ります。

六 蒙疆産業開發に對する蒙疆政權の態度

次に蒙疆政權が産業開發に對してどう云ふ態度で臨んで居るか云ふことを大要申上げて見ますと、大体重工業方面の鐵、石炭に對しては、蒙疆政權としては、これは獨占する考へをもつてゐない、日本の政策に添ふて行くのが本當でないかと思ふ。同時に北支經濟開發一元化、さう云ふ線に依りまして重工業を開發する。蒙疆の重工業も、北支開發會社の手でやるのが本當だと思ひますが、大体重工業以外の輕工業と農業部門は蒙疆自体で開發して行く、輕工業と農業品は蒙疆でも出来る云ふ態度を執つて居ります。重工業の方は單に發言權を持つだけでありませうから、それだけに輕工業、農業關係に重點を置いて居ります。輕工業と申しましたことも

S 1.3.3.0 -1 1779 0353

ございませんで、程いて言へば農業生産品の加工工業とか或は羊毛、皮革、塩ソーダ工業位のものしかございませぬ。農業の方は生産方法を改良し、殊に羊毛は撰毛工場を設けて規格を統一して行く、凡てのものに亘つて規格を統一して行く、或は獸皮にしても鞣工場を作る云ふことが考へられて居ります。交通關係は、汽車は北支交通會社（現在は滿鐵）でやつて居りますが、自動車だけは蒙疆政權を會社を作らせてやらせて居ります。今出來て居る特殊會社としては、蒙疆電氣通信設備株式會社（資本金千二百萬圓）これは大体電信、電話の設備をやつて居ります。それから蒙疆電業株式會社（資本金六百萬圓）これは蒙疆地域の電氣一切をやつて居りますが、あの地域は元來外國人が電氣關係のことを全部やつて居つたのであります。即ち外國商人の手に依つて電氣その他が作られて居つたのであります。彼等は日本人の經營と餘程違つて居りました。自分の商標を永久に獲得するために、いろいろな工作をして居るのであります。例へば張家口の電氣と大同

S 1.3.3.0 -1 1780

の電氣は違ふのであります。片方は直流を使つて、片方は交流を使ふと云ふやうに、各地とも全部さう云ふ風になつて居ります。従つて外の方面からそこへ入ることが出来ないやうになつて居ります。外國の元買つた会社から買はないと、使へないからどうしてもその会社の品を使ふと云ふ譯で、永久に商標を確保して居るのであります。これが従來の蒙疆地域の電氣施設であります。成程外國人はうまいと感心させられたのであります。この蒙疆電業株式會社は蒙疆地域の電氣を統一することにかゝつて居ります。十一萬キロワットの電氣を起すことにして、器材は大部分日本からもつて行くことになつて居り、着々やつて居りますので近頃は非常に電氣も明るくなつて居ります。私の参りました當時は、夜になると字も書くことが出来なかつたが、近頃は新聞も讀めるやうになつて居ります。その他は大したものもありませんが、蒙疆新聞社、これは獨占で資本金四十萬圓、蒙疆石油株式會社（資本金八十萬圓）蒙疆運輸株

S 1.3.3.0-1

1781

0354

式會社（資本金百萬圓）蒙疆羊毛同業會（資本金三百萬圓）等が特殊會社として出來て居ります。

第三 金融工作の概要

一 察南地域の金融工作

次に金融事情を一言申上げて置きます。金融工作は関東軍が這入つて來ました關係上、滿洲中央銀行が工作に當つたのであります。先づ工務員が軍と一緒に昨年九月親家口に入つた。そして親家口の中央銀行であつた察哈爾商業銀行へ乗込んだのであります。その以前に察哈爾商業銀行は遼早く諸帳簿、未發行券、現金等を拐帶營業は疎方もなくなつて逃亡してつたので、横權者も預金者も不明と云ふ状態であつたのであります。何か資料はないかといろく捜し

S 1.3.3.0-1

1782

たが何も出て来ない、偶々紙屑籠の中にバランスシートの切れ端が
ありまして、これに依って大体の資産、負債の見當がいたのであ
りますが、バランスシートにある貸金の貸付先と預金が何んどして
も判りない、種々苦心し、地方の古元に聴いて見たりしたか知って
居るものもない、が大体四百萬元乃至五百萬元の紙幣發行高をもつ
て居ったことが推定され、準備金は發行高以上に保有し、大部分京
津方面に預け金となつて居ることも判つた。非常によい端緒を得た
ので軍と相談致しまして、行員二人を早速北京と天津へ乗込ませ
た。ところが北京の支店は既に張家口が日本軍に占領されて本店が
逃亡したのも知らずに平氣で營業して居った。そこへ乗込んで居たの
ですから、帳簿もあつて預金の状態が全部判りました。しかしよく調
査して見ると、天津方面で二百萬元程度の紙幣が發行されて居った
が、事變の發生と共に舊法幣との兌換が急増し、七割位は兌換され
結局總發行残高は三百萬元乃至四百萬元位になり、預け金は百萬元

S 1.3.3.0-1 1783

0355

を残すのみとなつた。

これはいかんよ云ふので、大至急工作をしなければならぬと云
ふことになつて、その急場を救ふために一時兌換をストップ致しま
して、官憲と協力して察哈爾商業銀行の預け金を至急回収すること
になり、約百萬元ばかりの回収に成功した。これを正金銀行に預金
致しまして、その百萬元を基に尙且つ滿洲中央銀行から百萬元を借
金致しまして資本金百萬元の察南銀行と云ふものが設立されたので
あります。そして察哈爾商業銀行の未發行券の逃亡額一千百萬元が
追入つてくるかも知れないし、追入つてくれれば幣制を救茶々にす
る。それ故に察南銀行は大至急紙幣を發行して商業銀行の未發行券
の廻つて来ない間に、營業を開始し、舊紙幣を回収しなければなら
ぬと云ふので大至急に工作を始めましたのであります。銀行を作つて
も紙幣の印刷が直ぐ出来る譯でないのです、いろいろ考へた揚句、滿
洲中央銀行が出来た時、張作霖の東三省官銀號の紙幣に滿洲中央銀

S 1.3.3.0-1 1784

行の印を捺して暫らく間に合した、その當時の古い札が満洲中央銀行にその儘ありましたから、それを借りて来て満洲の例に倣ってその古い札に更にもう一つ察南銀行と入れましてそれを使用した。ところが支那人は非常にお可笑しなもので、同じ札でも銀行の名前が澤山あると非常に信用して……(笑聲起る)銀行の名前が澤山あると信用して、どんぐりこれが交換に來まして、舊紙局券が回収され今日尚且此の紙幣が相當に流通され却々歸つて來ませぬ。それと同時に貸付金の回収を始めたら、何處に幾らあるか見當がつかない。そこで察南銀行では「舊察哈爾商業紙局に債務のあるものは申告すべし、若し債務があつて申告をなさざるものは相當の處置をする」と云ふ意味の布告を發しました。之により申告して來た分が百貳拾萬元ばかりありまして、これは現在立派な債權として發されて居ります。

まアこれはおどかしもありませんが、一面元來が派家口は山西商人

三四

S 1.3.3.0 -1 1785 0356

が大部分を占め、彼等は守銭奴と稱される程錢を發することは事實であります。それと同時に非常に商取引を重する、今までの察哈爾商業紙局では預金帳をもつて居るものはない、紙幣をもつて來て窓口で投げて行くだけで預金帳も何もない、銀行の帳簿だけが營業して居る、それを信用を重する國民であります。現在でも非常に商取引に信用を重する、この點に於て日本人はもつと眞剣に考へなければならぬと思ひます。こないだ大阪の貿易視察團が來ました時、その話を致しました處感心して行きましたが、その時に大阪から「幾ら派家口でも支那人は信用がならないから銀行が保證してくれ」と申込んで來た。それは俺の方で眞平を、買ったものを支拂はないやうな商人は派家口には一人もゐない、北支や天津の支那人商人は何十萬と云ふ商品をたゞで送つて來て、賣上げて初めて金を拂つて居る様な状態だからそんな心掛では日本の商品は絶対に入りませぬ」と申しましたが、まアそんな譯であります。

S 1.3.3.0 -1 1786

二、晋北地域の金融工作

それが大同と厚和であります。大同には地場銀行はございませぬ。太原に山西省銀行外五ツばかり銀行があります。此の支店が大同にあり、所謂山西票を發行してゐるのであります。晋北地區内で發行して居るか見當がつかず、銀行も逃さしてしまつたので全部政府の負擔に於て山西省銀行券外全部パーで回収した。これは宣傳工作上パーで回収したのであります。斯くて回収した山西票は百五十五萬餘元に達しました。

三、綏遠地方の金融工作

綏遠の方は例の傅作義の機關銀行であつた綏遠平市官銀局と、それから豊業銀行とがあります。この二つの銀行は各々紙幣を發行

S 1.3.3.0-1 1787

0357

して居ります。傅作義は自分が永年培つて来た土地から自分が逃げるに際し、住民に迷惑を及ぼすに忍びぬ、自分は政治家であるから住民に迷惑を及ぼさないと考へて、自分だけ逃げて了つて銀行はどつくり置いて参りました。支配人だけが行動を共にして逃げたが副支配人、行員、財産はどつくり置いて行つた。終つて此の平市官銀局券及豊業銀行券は等價流通を認め漸次蒙疆銀行券を以て回収して居るのであります。こんな點から見ても傅作義と云ふ人は相當に政治的だつた様に思ふのであります。

第四、蒙疆銀行と金融統制の強化

一、蒙疆銀行の創立

斯う云ふ風に金融工作が進んで来た一方、十一月二十二日蒙疆

S 1.3.3.0-1

1788

各委員會が成立して、蒙古、察南、晋北各自治政府が一定の權限を
之に委託し、金融を一元化すると云ふことになり、察南銀行を改組
擴充して蒙疆銀行を作つてこれを蒙疆地域の中央銀行にしやうと云
ふわけで廿二日に蒙疆銀行條例、同組織辦法を出して十一月廿三日
に蒙疆銀行が創立され、十二月一日に開業し、同時に察南銀行、綏
遠平市官鐵局、豐業銀行を合併して今日に至つたのであります。

二 蒙疆銀行の業務概要

蒙疆銀行は蒙疆地域の中央銀行でありまして、法令の定むる所に
より

- 一 地域内に於ける金融の指導統制
- 二 紙幣の製造及發行
- 三 國庫金の取扱

三七

S 1.3.3.0-1 1789 0358

四 内外為替業務

三 一般銀行業務

の使命を有し非常に業務が發展致して居ります。滿洲中央銀行から
首腦部が派遣されました、わねくもその一行で参つたのでありま
すが、現在行員は約四百人居ります。うち約八十人は日本人で副總
裁初め課長級、主要支店長級は日本人でやつて居るのであります。
紙幣の發行高は三千百萬元に及んで居ります。昨年十二月の九百萬
元にして一ヶ年で二千萬元以上も殖えて居ります。六月末には千
七百七十三萬元だったのが僅か三四ヶ月の間に非常に殖えて居りま
す。預金は現在二千四百萬元でこれも昨年十二月には僅か七百餘萬
元であつた。貸付は千八百萬元でこれも矢張昨年十二月には七百餘
萬元であつたのであります。この非常なる急激な増加を致しました
その原因はいろいろあると思ひますが、政權の確立、幣制の統一、
事變の平靜化に依つて經濟取引が復活したことなどいろいろありま

三八

S 1.3.3.0-1 1790

すが、蒙疆地域に於ける經濟工作の進捗に依るものと確信致して居ります。

三、金融統制の完成

それから一般に申し上げますと、蒙疆政權は非常に政策的に強い、例へば金融統制に関する命令を九月に出しまして蒙疆聯合委員會は金融統制上又は公益上必要なる場合は金融機關の解散又は營業の廢止を命ずることを得ることにし、厚和、包頭其の他にありました交通銀行、中國銀行、斯う云ふ支那銀行の營業の廢止を命じまして、蒙疆銀行に合併して了った「財産、負債は一週間以内に清算し合併すべし」との命令を出して蒙疆銀行に接收して現在蒙疆銀行で引換けてやって居るのであります。滿洲でさへ交通銀行、中國銀行はそのまま残って居って手の出しやうもないのに、蒙疆はこれを簡単に

S 1.3.3.0 -1 1791 0359

片付けて了った。これは可なり將來の外交關係、政治的關係の上に問題を發すことを覚悟して居りますが、それはどっか解決して行くのだらうと思つて居ります。(英聲起る)

第五 蒙疆地域の通貨と爲替事情

一 通貨制度

次に蒙疆の通貨問題に付て一言申上げて置きます。蒙疆地方は戰爭地域でございまして、まだ行政がノーマル化して居りませぬ。まだ貨幣法も發布して居りませぬ。元來戰事地金融と云ふものは——戰爭と云ふものは勝つとは決つてゐない、負けることも豫想しなければならぬ、幸ひにして支那事變は絶對的に日本が勝つことを確信して居りますが、この戰爭に依つて金融機構は滅茶々々になることを防

S 1.3.3.0 -1 1792

がなければならぬ。戦争遂行の爲には現地で物資を買はなければならぬが、その際萬一預けることを豫想するならば銀行なんか作り、軍票を持つて行つて物資を徴發すればいいのです。支那事は幸ひにして勝つことを確信して居りますから、それに依つて將來に禍根を残さない金融工作を行ふのが最もいいのでして、換言すると平戦両時に亘る頑固なる金融機構を作つて、平時に遠慮用とされるのが好ましい。此の點に於て蒙疆地域は實に成功したと思ひます。

蒙疆の通貨制度は緊急通貨防衛令と蒙疆銀行條例の定むる所でありまして蒙疆銀行の發行する蒙疆法幣を以て無制限の法貨とし補助貨は蒙疆銀行の鑄貨發行に至るまで、滿洲中央銀行の鑄貨を充當することになつて居り、而して蒙疆銀行條例には蒙疆銀行は蒙疆聯合委員會の委託に基き貨幣の製造發行を爲す、紙幣の發行に對しては正貨準備として發行高に對して四分の一以上の金銀塊、蒙疆銀行券

以外の確實なる通貨又は外國銀行に對する右通貨を以てする預け金を保有することを必要とする。云ふのであります。尤もこの四分の一以上を保有しなくとも、場合に依りまして年五分の發行税を納めれば無制限に發行が出来るのであります。

二 通貨政策の概要

尚ほ蒙疆銀行はどうして蒙疆銀行券の價值を維持して居るかと思ひます。對外的には曰滿國に等價を以てリンクして居ります。即ち滿洲國幣と等價交換の協定を締結して居ります。之は滿洲中央銀行が工作致しました關係上、滿洲國幣を眞先にもつて行つたのであります。滿洲國幣が日本の圓と等價になつて居るから間接に日本の圓にリンクして居るわけでありませう。次は現地の軍資金は蒙疆銀行券を使用するが、その使用する蒙疆銀行券と日本銀行券、朝鮮銀行

S 1.3.3.0-1

1794

S 1.3.3.0-1

1793

0360

券と、等償を以て交換することになって居ります。

第三は爲替契約であります。滿洲中央銀行、正金銀行、朝鮮銀行、住友銀行等と爲替契約を締結し等償で爲替を組んで居ります。第四は對内關係から申しますと蒙疆銀行券は住民に非常に信任を得て居り尚ほ且つ地域内の物價もさう騰る傾向がない。第五は準備が非常に多く、外債預金及銀塊を相當に保有し、準備率は百%以上である等通貨政策は可なりうまく行つて居るやうに思はれます。

三 對外爲替問題

更にいろいろの問題がありますが、今私達が日本に来る前に大きな問題として——また現在問題になつて居るのは對外債値の問題であります。これは四五日前日本銀行に行つて話をしたのであります。外國爲替は現地では實は一志二片では組めない状態になつて居る。

S 1.3.3.0-1 1795 0361

蒙疆銀行ばかりではありませんが、大陸に於きましては圓ブロック紙幣では現在外貨取引は出来ませぬ。外貨に連繫をもつてゐない蒙疆銀行券、中國聯銀券、日本銀行券皆同じであります。これを一つ外貨に連繫した賣力を採り、一志二片の對外債値を持たせなければならぬと云ふのが最近の議論になつて居ります。蒙疆銀行はその工作にかゝつて居ります。元來蒙疆は資源が豊富で經濟は何等不安がなく蒙疆銀行券は成程非常にうまく行つて居るが併し蒙疆の産業開發をする場合に、日本は圓ブロックへの輸出を制限して少しも品物を寄越さない。而も現地に於ける日本銀行券も北支の中國聯銀券も外貨に連繫してゐない。外國から物が買へない、これではどうしても蒙疆の産業開發は出来ないのであります。現在蒙疆銀行券で外國から物を買ふ場合はどうするかと云ふと、蒙疆銀行券を以て中國聯合準備銀行券を買ひ更に舊法幣を買ひまして、その舊法幣を以て外國の爲替銀行に行つて外國爲替を買はなければ出来ぬことになる。舊法幣は大体八片台

S 1.3.3.0-1 1796

の相場であります。而かも舊法幣は中國聯銀に於ては九割を回收して居るが實際の値段は天津の租界に於て聯銀券十圓に付十九圓位で舊法幣の方が高くなって居ります。舊法幣は外債に八片台の相場を持ち、片方の蒙銀券、聯銀券と日本通債の關係はパーである。日本^の外國外債は一志二片であるから舊法幣による外國貿易は差額文^の資本の逃避が行はれて居るわけですから、寔に情儀に堪へませんが事實上は如何ともし能はざる状態であります。

と申すのは租界と云ふものがございまして、あすこに於て——租界のことは後程申上げますが——完全に外國貿易その他が全部外國人にキヤッチされて居る、日本人も支那人も手も足も出ないで居るの
居るのであります。

四 爲替管理と物資統制

通貨の問題の序にもう一つ申上げますが、今蒙疆銀行券は斯様な
わけに對外債八片に格付されて居るのでございしますが、それ故に
出来るだけ早く外債を獲得致しまして、外債との運搬を持たせ一志
二片の價値を維持すべく一、二月前から準備に取掛つたのでありま
す。これは物資の方に非常に影響を及ぼすのであります。蒙疆の
物資輸出は全部天津に於ける外國商人に牛耳られて居る。此の商權
を蒙疆自体で獲得し、蒙銀券を外債に連繫させ、蒙疆銀行乃至蒙疆
自体で外國、物を賣つて外國爲替を組めるやうにしやうと云ふ計畫
を樹てたのであります。私共の考へますのに、外國商人の牛耳つて
ある外國貿易を止めまして、直接蒙疆で外國と取引を行ひ、外國
爲替を組めるやうにする。即ち物資統制をすると同時に、片方に於
て爲替管理を行つて資金の統制を行ふことにし、九月十八日通貨取
締令と云ふ法律を出しまして、爲替管理と物資統制を行つたのであ
ります。即ち通貨取締令は爲替管理と、物資統制を規定したのであ

S 1.3.3.0 -1

1798

S 1.3.3.0 -1

1797

0362

ります。その物資統制の範圍は鐵鑛石、石炭その他の鑛石三十七種、獸毛皮革一切、油脂原料、卵、卵粉、卵液等、さう云つた外國に輸出する物品は凡て許可制度に致しまして、蒙疆聯合委員會の許可を得ずして外國に輸出することを得ずとし、許可の條件を第一に國爲替で組むこと、第二に外國爲替を組むことにし、この二つの條件がないと許可されない、斯くて獲得した爲替は之を蒙疆銀行に賣却することを要することにしたのであります。

斯くの如くして蒙疆自体に於て外債を獲得し、一志二片建の外國爲替を組み、獲得した外債によつて日本より得られない産業開發物資を外國より購入し、場合によつてはその外債を日本に提戻しやうと云ふわけであります。即ち通債取締令と云ふ名前で、爲替管理と物資統制を行つて居るのであります。

それを準備致しまして、こちらに來たので、あとの結果はどうなつて居るか申上げられませぬが、それに依つて外債が獲得出来るこ

S 1.3.3.0-1 1799

0363

とになれば幸ひだと思ひます。當分さう云ふことで行くのではないかと思はれるのであります。

五 租税と貿易の實狀

それから租税に於ける外國貿易の狀況に付て申しますと、蒙疆から出ます羊毛なり皮革なりを外國へ出す場合には、先程も申しましたやうに、外國商人を通じ舊法幣を以て出しますが、この舊法幣は一志二片の外債にはならないで、八片の外債にしかならない。さう云う状態にしてその獲得した外債さへも現在はわねくの手に入らないので一文にもならない、御承和のやうに、天津の租税は外國銀行、貿易業者、税関の機關一切、外國取引の一切を握つて居るのであります。そして彼等は支那人や日本人商人から買受けた物品を自分の手を通じて外國へ出して居る。斯くて獲得した外債は新政權の

S 1.3.3.0-1 1800

方へ入って来ないで、全部租界に於ける外國銀行が掌握する、曰本人や支那人商人への代り金は聯銀券で支拂はれる、然も香上、花旗銀行等の外國銀行は舊法幣を支持し國民政府の支持であります。これは大きな問題で、或は國民政府が外國から輸入する武器、彈藥の決済資金にその外債が使はれて居るかも知れない、事實使はれて居る形跡もある。折角曰本人が政治的に軍事的に北支、蒙疆のヘゲモニーを獲得しても、經濟的に於てその獲得した外債が敵のために使はれて居る。これを放任して置いたんでは何時まで立つても、曰本の完全なる勝利は期し得ないと信ずるのであります。従つて蒙疆としてはこの現状を見るに忍びず、これを打ち壊さねばならぬと云ふ譯で、爲替管理と物資統制を行つたのであります。果してそれがよいかは、いろいろ批評もありませうが、殊に蒙疆は滿洲から行つて居る人が多いので、滿洲ではむづかしい法律は作らないと云ふことを、信條にして居りますから、その事情を擲んで

S 1.3.3.0-1 1801 0364

非常に乱暴のやうであります。精神はさう云ふところにあつて、
ろくやうして居るのであります。

第六 蒙疆經濟の特殊性

一 物々交換經濟の實狀

それからもう一つ結論として蒙疆經濟のことを申し上げたいのであります。蒙疆地域は經濟的には特殊の地域だと云ふことを第一番に認識して頂く、換言すれば蒙疆はまだ完全に貨幣經濟になつてゐないと云ふことを認識して頂きたいのであります。京包線の蒙疆地帯とか、更に察南、晋北方面を除いては未だ完全な貨幣經濟には實はなつてゐない。従つてまづ彼等から物を出させやうとしますならば、物を與へなければならぬ。雜貨でも綿布でも必要物資を持つて行かな

S 1.3.3.0-1 1802

ければ、物が少ないと云ふ譯であります。蒙古の奥から駱駝とか牛車等に積んで、張家口なり厚和なりに来て、必要物資と交換する譯であります。又はそれ等の駱駝隊を組織して奥地に出て行って交換する、さう云った譯で、現金の取引は殆んどないのであります。併し包頭や張家口は全部現金取引になって居りますが、直ちに現金が物に變つて奥地に進入して行く、然るにも拘らず現在の日本の状態から申しますと、圓ブロッケ内の輸出制限と云ふことがあつて自由に物が進入しない、従つて向ふから物が出ない、大体奥地へペーパーマネーを持って行つても仕様がなないので、商品のない所に貨幣經濟が成立つ譯はありませぬ。その一例を申しますと、私の友人が現金を二十萬圓ばかり持つて本店へ来る途中多倫の近くで道に迷ひ夜になつてしまつたので己むを得ず農家に宿めて頂き、食物がないので鶏を賣つてくれと頼んだところ拒絶された、そこで一羽十圓だからどうだと言つてもお金は幾らでも駄目だ、鶏は俺の財産だと言

S 1.3.3.0-1 1803 0365

つてどうしても賣らない、それで仕方がないから、ポストルを突きつけて（笑聲起る）鶏を殺させたと云ふ實話があります。大体さう云つたやうな譯であります。組織がないのであります。將來蒙疆の文化が進み、商品がじんく入れば貨幣經濟になりませうが、今の所は物が進入しなれば物が出ないのであります。羊毛なり皮革なり、さう云つたものを蒙疆から引出すためにはじんく品物を送つて頂きたいと思ひます。但し蒙疆經濟と云ふものは元來搾取經濟でもありますか、從來よりさう云ふ點が非常に濃くなつて居ります。例へば蒙疆から一千萬圓の物を得るとするならば、日本からも一千萬圓の物を持つて行かなければならぬと云ふことはないのです、實際は五百萬圓にも足りないもので済む、一千萬圓の物を持つて行けば三千萬圓位になるものを持つて来られるかも知れない。從來の蒙古貿易の例を見ますに、度量衡の制度にしましても、滿洲の一尺と蒙古の一尺とは違ふ、奥地の蒙古人のどころに行く

S 1.3.3.0-1 1804

とだんぐ一尺が小さくなる（笑聲起る）五十圓のものでも百圓だ
と云へば百圓に信用する、同じ百圓の向ふの品物をその儘交換する
お前の百圓の品物をくれ、俺の百圓の品物をやるからと言へば信用
する、實質は五十圓しかないに拘らず、さうして支那人が非常に控
取して居った、民國十八年の外蒙貿易は張家口だけで五千萬圓に上
ったが、こつちからやるものはせいぐ半分だったらうと云ふ話で
五千萬圓のものを取つて二千萬圓が二千五百萬圓のものしかやつては
居らない、いろいろ経費と云ふやうなものも掛りますが、さう云ふ
状態でありまして、現在でも搾取的方法でやられて居るのではな
いか、多少さう云ふ傾向は感じて居ります。私共がこれから仕事を
斯様な從來のやり方を踏襲することは無論避けねばなりません、
其處に不自然性がないことを考慮せねばならぬと存じます。

ニ 西北經濟依存性

更に西北經濟ですが、蒙疆經濟は西北依存性が非常に濃厚であり、
且つ重要な問題であります。例へば天津に於ける羊毛の輸出ですが、
支那に於ける羊毛の七割は天津から出るさうであります。そのうち
の七割餘りが蒙疆から出て居る、殆んど大部分蒙疆から出て居る、
そのうちまた七割が西北方面から出て居るのであります。蒙疆は西
北物資の通過する方が多いのであります。通過する上の税金その他
に依つて蒙疆經濟は非常に助かる、蒙疆經濟は蒙疆だけでは重要性
が半減される。西北を入れて蒙疆經濟の重要性は増加する。われわ
れは西北方面の重要性を斯かる意味に於て非常に高く評價して居る
のであります。民國二十五年に西北方面より包頭に集貨された羊毛
は約三千三百萬斤に達し、其の中に西寧羊毛の一千七百萬斤の如く濠
州羊毛に匹敵する優秀なものもあります。阿片は年一千万兩を濠想とわ
て居るのであります。其他獸皮農産物等西北よりの移入は現在日本
の工作が包頭で止つて居るので絶無に近いのであります。一日も早

S 1.3.3.0-1

1806

S 1.3.3.0-1

1805
0366

く工作して西北を開くことは非常に大切だと存じます。
大分話が永くなりましてしたのでこの位で止めて置きますが、私の話
の結論は蒙疆は日本の必要なる原料品は最先に日本へ出す、但し蒙疆
から物を出す際には必要物資を蒙疆の方へ出してくれと云ふことで
大体盡きるのであります。而して日本の必要のない物資は蒙疆自体
で外國へ賣り、獲得した外貨は日本へも提供しやう。之が蒙疆政權
の現在採って居る態度であります。

第七、支那人と蒙古人

私共常に支那人に接して感じますことを談片的に申上げて見ます
と、私共の銀行の行員も大部分は支那人でございます。向ふに居る
支那人は實はあまり教育程度が高くありません。せいぜい小學校中
學校位のもので、北京大學を出たものは何人もみないと云ふ譯で、

三五

さう深い見識のあるものは居りませぬ。個人としての支那人は良い
性質をもって居りました。友情に厚く——本當に友情を以って殆んど
兄弟分のやうに交ることが出来る。大体に個人としては非常に情深
く——日本人よりも寧ろ頼りになるやうな人間であります。但し
公人とし、團體となると習慣として非常に性質が違ふ、相反する、
個人としての支那人と團體としての支那人とは丸切り性質が違つ
てくる。元來今日の支那人は徹底的に權力を以って押へつけるより
途がないではないかと云ふのが、一つの大体支那人に對する見解であ
ります。また虐め抜かれて来て、二進も三進もならない結果が今日
のやうな支那人になつたと思ひますが、私は二三十年日本の子供を
教育するやうに親日的に教育して行つて初めて本當の支那人が出来ると思
ひますが、それまでは日本は支那の國民に對して徹底的に權力をも
つて押へつける方がよいと思ひます。
そこへ行くと蒙古人は非常に純情を以て日本人の言ふことを非常

五六

S 1.3.3.0-1

1808

S 1.3.3.0-1

1807
0367

によくきく、蔭曰なたがない、裏がない、支那人は友借には厚いが日本に留學したここのある支那人でせへも、日本人はどうしてそんなに働くかと思ふに思つて居る。われわれ日本人は夜も晝もなく仕事に對し責任感が強く、一生懸命やつて居りますが、支那人は一通り自分の仕事が済むと歸つて了ふ。日本人はどうしてあんなに仕事をやるのか、同じ給料で九時から四時迄働いたら、用事が済んだら歸つたらよさそうなものだと言ふのです。併し私達は言ふのです。「日本人が今日このやうに發展した跡を考へて見よ、日本人は給料に依つて仕事をするのではない、與へられた仕事は自分の仕事として責任をもつ、給料はその人の報酬で、それ以外には吾々は考へてゐない、日本人は國家發展のために所謂自主的に働くから今日發展して居るのである、お前等は自分の仕事さへやれば、月給さへ上ればと思つて居るから結構こんなことになるのだ」とこんな風なことを云ひきかすのでありますがあまり分らないやうであります。

五七

S 1.3.3.0 -1

1809

0368

第八 支那に於ける外國人の文化政策

五八

それからもう一つ大陸の政策で注意しなければならぬことがあります、私共大同へ行きました驚いたことは、大きなカトリック教の修道院がございます。この修道院は年に十萬圓位の費用を和蘭佛國から送つて来て居るさうであります。また熱河との境にも修道院があり各地にある。これには外國人の宣教師が長く居つて經營して居る、彼等は布教するばかりでなく情報を本國に送る、その代り何十萬と云ふ金が本國からたゞで送つて來まして、どんぐりいろくの工作をして居ります。この修道院の中に電氣を起しまして、電氣の自給自足その他にしていろいろの組織を以て居りまして、あゝ云ふ山の中で斯う云ふ文化的な教會を聞いて居られることに感心しました。非常な大きな、そして邊鄙な——晋北自治政府の邊境な地へ行つてもさう云ふものがある。尤も自彼等が宗教方面に使ふ金

S 1.3.3.0 -1

1810



は年に數百萬圓に上るのではないかと思ふ、さう云ふやうな外國人の
租界の建設なり文化方面の施設なりを見まして、曰本人が今まで眠
つて居つたことを私は恥するのであります、私は本當に日本として
は恥入るべきことだと思ひます。

x x x x x x

大變取止めもないことを永く話して相濟みませぬでした、何かま
た御質問でもありますれば申上げますから遠慮なく、お仰つて頂き
ます。どうも有難うございました。(終)

S 1.3.3.0-1

1811

0369